

新国立劇場 2022/2023 シーズンオペラ
W.A.モーツァルト

ドン・ジョヴァンニ

Don Giovanni

2022年12月6日(火)~12月13日(火)

会場:新国立劇場オペラパレス 2022年10月1日(土)前売開始



2019年公演より

モーツァルト珠玉のアリアが綴るドン・ジョヴァンニの華麗なる恋と最期

稀代のプレイボーイ、ドン・ジョヴァンニの華麗なる恋の遍歴と衝撃的な最期を描いた、モーツァルトの人気作。次々に女性を渡り歩いた挙句、地獄へ落とされたスペイン伝説の色事師“ドン・ファン伝説”をもとにした、劇的で疾走感に満ちた展開のオペラです。デモニッシュな魅力あふれる主人公と女性達の美しいアリアが次々展開し、モーツァルトの魅力を伝えます。

名匠オルミ指揮、アルベルギーニ、ブラット、マルフィら精鋭歌手が揃う最高のモーツァルト

指揮には名匠パオロ・オルミが12年ぶり、待望の新国立劇場再登場。ドン・ジョヴァンニ役で各地に招かれているイタリアの実力派シモーネ・アルベルギーニ、柔軟な美声を武器に飛ぶ鳥を落とす勢いで活躍中のソプラノ、エレオノーラ・ブラット、今日の世界的スターのメゾ、セレーナ・マルフィと、著名劇場の来日公演や映像でも馴染みのスターをはじめ、モーツァルトやバロックで活躍するレナート・ドルチーニ、多彩なレパートリーで躍進中のテノール、レオナルド・コルテラッツィと、贅沢この上ない顔合わせとなりました。モーツァルトのオペラを観てみたいという方にも、通の方にもお薦めの素晴らしい布陣で、最高のモーツァルトをお届けします。

※新型コロナウイルス感染症の影響により、公演内容や招聘スタッフ・キャストに変更が生じる場合があります。

<資料・写真のご請求、ご取材のお問い合わせ>

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当 高梨木綿子

Tel:03-5352-5733/Fax:03-5352-5709/E-Mail: takanashi_y2525@nntt.jac.go.jp

ドン・ジョヴァンニの華麗なる恋と最期を描くモーツァルトの代表作

人々を魅了してやまない稀代のプレイボーイ、ドン・ジョヴァンニの華麗なる恋の遍歴と衝撃的な最期を描いた、モーツァルトの人気作。娘を誘惑してその父親を殺し、石像として現れた父親の幽霊に地獄へ連れていかれる伝説の色事師“ドン・ファン伝説”をもとにした、劇的で疾走感に満ちた展開のオペラです。デモーニッシュな魅力あふれる主人公と憎めない性格の従者レポレッコ、対する女性達の数々の美しいアリアで綴られ、石像との息詰まる対決とそれに続くラストの地獄落ちは、圧巻のクライマックスです。アサガロフ演出は主人公を 18 世紀に実在した色男カサノヴァになぞらえ、舞台をヴェネツィアに移しています。



名匠オルミ 12 年ぶりの登場！この上ない贅沢な顔合わせによる、最高のモーツァルト



指揮にはイタリア・オペラで名高い名匠パオロ・オルミが 12 年ぶり、待望の新国立劇場登場。モーツァルトやベルカント・オペラで世界を魅了するイタリアの実力派バス・バリトン、シモーネ・アルベルギーニの得意役ドン・ジョヴァンニでの登場には、オペラファンの期待が募ります。ドンナ・アンナには柔軟な美声でミラノ・スカラ座、ウィーン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場など著名劇場を席卷するエレオノーラ・ブラット、ドンナ・エルヴィーラにウィーン国立歌劇場や英国ロイヤルオペラなど主要劇場で引っ張りだこのセレーナ・マルフィと、ソプラノとメゾの今最も勢いのある旬のスターが揃います。レポレッコにはモーツァルトやバロックで活躍するレナート・ドルチーニ、ドン・オッターヴィオには軽やかな声で躍進中のテノールのレオナルド・コルテツラツツィが出演。ツェルリーナとマゼットのカップルに、情感あふれる演奏で人気のソプラノ石橋栄実、引き締まった声と演技で躍進するバリトン近藤圭が出演するのも楽しみです。騎士長には進境著しいバス河野鉄平が出演、迫力のラストシーンが期待されます。この上なく贅沢な顔合わせで、最高のモーツァルトをお届けします。



指揮にはイタリア・オペラで名高い名匠パオロ・オルミが 12 年ぶり、待望の新国立劇場登場。モーツァルトやベルカント・オペラで世界を魅了するイタリアの実力派バス・バリトン、シモーネ・アルベルギーニの得意役ドン・ジョヴァンニでの登場には、オペラファンの期待が募ります。ドンナ・アンナには柔軟な美声でミラノ・スカラ座、ウィーン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場など著名劇場を席卷するエレオノーラ・ブラット、ドンナ・エルヴィーラにウィーン国立歌劇場や英国ロイヤルオペラなど主要劇場で引っ張りだこのセレーナ・マルフィと、ソプラノとメゾの今最も勢いのある旬のスターが揃います。レポレッコにはモーツァルトやバロックで活躍するレナート・ドルチーニ、ドン・オッターヴィオには軽やかな声で躍進中のテノールのレオナルド・コルテツラツツィが出演。ツェルリーナとマゼットのカップルに、情感あふれる演奏で人気のソプラノ石橋栄実、引き締まった声と演技で躍進するバリトン近藤圭が出演するのも楽しみです。騎士長には進境著しいバス河野鉄平が出演、迫力のラストシーンが期待されます。この上なく贅沢な顔合わせで、最高のモーツァルトをお届けします。

<ものがたり>

【第1幕】従者レポレッコを引き連れ、夜な夜な女性の家へ忍び込む、稀代の色男ドン・ジョヴァンニ。今宵はドンナ・アンナの部屋へ行くが、彼女の父親である騎士長に見つかって決闘となり騎士長を刺し殺してしまう。アンナは婚約者ドン・オッターヴィオに、犯人を探して復讐してほしいと求める。ジョヴァンニは通りすがりの女性に声をかけるが、それは昔の女ドンナ・エルヴィーラ。彼女はジョヴァンニに捨てられてもまだ彼を愛し、彼を探していたのだ。ジョヴァンニは大慌てで逃げる。後を託されたレポレッコは彼女に、ジョヴァンニはヨーロッパじゅうの 2000 人も女性と関係しているのだから諦めるよう諭す。村で農夫マゼットと村娘ツェルリーナの結婚式が始まるとうとき、ジョヴァンニが現れて花嫁を誘惑するが、すんでのところエルヴィーラが止める。アンナは犯人探しの協力をジョヴァンニに求めるが、話すうち彼こそ犯人だと気づく。村人たちを招いてパーティを開くジョヴァンニは上機嫌。そんな彼をアンナたちは追及する。

【第2幕】ジョヴァンニはレポレッコと服を交換して変装し、エルヴィーラの小間使いを誘惑。マゼットと農民たちはジョヴァンニを殺そうとやってくるが、ジョヴァンニ扮するレポレッコに計画を話してしまい、逆に痛めつけられる。彼の服を着たレポレッコは命からがら逃げてきて、ジョヴァンニと落ち合う。すると、騎士長の墓の石像が、戒めの言葉を喋り出す。驚く 2 人だが、ジョヴァンニは臆せず石像を晩餐に招待する。夜、彼の家に本当に石像がやってきた。石像はジョヴァンニに悔い改めるよう迫るが、彼は拒否。石像はジョヴァンニの手を取って炎の中へ引きずり込み、地獄へと落ちるのだった。

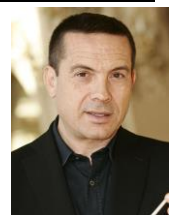


<主要キャスト・スタッフプロフィール>

【指揮】パオロ・オルミ

ローマでマッシモ・プラデッラとフランコ・フェラーラのもとで指揮を学ぶ。1986年にボローニャ歌劇場でオペラ指揮者としてデビュー。その後、ミラノ・スカラ座、ローマ歌劇場、フェニーチェ歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、英国ロイヤルオペラ、ザクセン州立歌劇場、ブエノスアイレスのコロン劇場など世界各地で活躍。90年から93年までRAI交響楽団音楽監督、2006年から11年までナンシー歌劇場と同交響楽団の音楽監督。サンタ・チェチーリア管弦楽団、フランス国立管弦楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団、BBC交響楽団、RAI交響楽団などオーケストラとの活動も多い。近年では、ベルリン・ドイツ・オペラで『ファルスタッフ』『エルサレム』『アドリアーナ・ルクヴール』、ポルドー歌劇場『愛の妙薬』『仮面舞踏会』『セビリアの理髪師』、サヴォンリナ・オペラ・フェスティバル『アイダ』『ルチア』などを指揮。最近のオペラでは、ポルドー歌劇場『セミラーミデ』、トゥーロン歌劇場『椿姫』、マシー歌劇場『アイダ』、オマーンでのローマ歌劇場『道

Paolo OLMI



化師』、香港オペラ『トゥーランドット』『リゴレット』などを指揮している。新国立劇場には、99年『仮面舞踏会』、01年『ナブッコ』、02年『ルチア』、10年『愛の妙薬』を指揮して以来の登場。

【演出】グリシャ・アサガロフ

Grischa ASAGAROFF

ドイツのジーゲン生まれ。ミュンヘン大学で音楽と演劇を学ぶ。1966年よりバイエルン州立歌劇場で舞台監督、演出助手の仕事を始め、ドルトムント歌劇場、ライン・ドイツ・オペラなどで助手を務め、ギュンター・レンネルト、ジャン＝ピエール・ポネルなどのもとで研鑽を積みながら国際的な活動をスタート。82年からチューリヒ歌劇場、86年からウィーン国立歌劇場首席演出家を務め、2012年までチューリヒ歌劇場芸術監督。新国立劇場では04年『カヴァレリア・ルスティカーナ』道化師、06年『イドメネオ』、08年『ドン・ジョヴァンニ』の演出を手がけるほか、09年ポネル演出の『チェネレントラ』では、再演演出および演技指導で参加している。



【ドン・ジョヴァンニ】シモーネ・アルベルギーニ(バス・バリトン)

Simone ALBERGHINI

ポーロニヤ生まれ。1993年トリノ王立歌劇場でデビュー後、イタリア内外の主要歌劇場に出演。ロッシーニ・オペラ・フェスティバルには『オテロ』『タンクレディ』『泥棒かささぎ』『ギヨーム・テル』など数多く出演。『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、フィガロ、『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロールのほか、『チェネレントラ』ダンディーニ、『ホフマン物語』悪役、『カルメン』エスカミーリヨなど、モーツァルト、ロッシーニをはじめイタリア・フランスオペラをレパートリーに、グラインドボーン音楽祭、ローマ歌劇場、マチェラータ音楽祭、ナポリ・サンカルロ歌劇場、ワシントン・オペラなどに出演を重ねる。これまでにウィーン国立歌劇場、ポーロニヤ歌劇場、バルセロナ・リセウ大劇場、トリノ王立歌劇場、チューリヒ歌劇場などで『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、フェニーチェ歌劇場、ポーロニヤ歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、『カルメン』エスカミーリヨなどに出演している。最近ではテネリフェ・オペラ『ドン・カルロ』ロドリゴ、ポーロニヤ歌劇場『シモン・ボッカネグラ』パオロ・アルビアーニ、トリノ王立歌劇場、パレルモ・マッシモ劇場『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、ナポリ・サンカルロ歌劇場『ラ・ボエーム』マルチェッロ、ポーロニヤ歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、フェニーチェ歌劇場『アルジェのイタリア女』ムスタファ、『椿姫』ジェルモンなどに出演している。新国立劇場初登場。



【騎士長】河野鉄平(バス)

KONO Teppei

クリーブランド音楽院大学卒業、同大学院修了。2003年サンフランシスコオペラ・メロウラオペラプログラム参加。同年『フィガロの結婚』フィガロでオペラデビュー。06年、シカゴ芸術大学ディプロマコース及びシカゴ・オペラ・シアター研修プログラム修了。同年シンガポールでも『フィガロの結婚』に出演。アメリカで23年間過ごし、帰国後は17年小澤征爾音楽塾『カルメン』スニガ、18年セイジ・オザワ松本フェスティバル『ジャンニ・スキッキ』ベツなど好評を博す。これまでに『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール／騎士長、『カルメン』エスカミーリヨ、『ドン・カルロ』フィリッポ二世、『シモン・ボッカネグラ』フィエスコ、『アイーダ』ランフィス、『ファウスト』(ハイライト)メフィストフェレス、『エウゲニ・オネーギン』グレーミン公爵などに出演。21年には二期会『タンホイザー』ラインマル、『魔笛』弁者、武士2に出演。新国立劇場では20年『夏の夜の夢』バック(台詞役)に出演したほか、22年『さまよえるオランダ人』オランダ人、『魔笛』ザラストロ、『ペレアスとメリザンド』医師に出演し称賛された。二期会会員。



【レポレッコ】レナート・ドルチーニ(バリトン)

Renato DOLCINI

ミラノ生まれ。2015年にウィリアム・クリスティの"声の庭"第7期に選抜され、ヨーロッパ、アメリカ、ロシア、オーストラリア、アジアツアーに参加。これまでにフェニーチェ歌劇場のカルダーラ作曲『ダフネ』、ジョン・エリオット・ガーディナー指揮オール・モンテヴェルディ・プログラム、ロワイモヨン修道院での『フィガロの結婚』フィガロ、ミラノとフィレンツェで『ドン・ジョヴァンニ』レポレッコ、ヴェルサイユ歌劇場、ボルドー歌劇場でロシア作曲『オルフェオ』サティーロ、ナント歌劇場『ポッペアの戴冠』オットーネ、クリスティ指揮レザール・フロリサン『デイドとエネアス』のアメリカツアーに出演するなど、特にバロック作品やモーツァルトで活躍。最近では、ザルツブルク音楽祭のクリスティ指揮『ポッペアの戴冠』セネカ、レザール・フロリサンの『ヨハネ受難曲』パリ公演及びヨーロッパツアー、イスラエル・オペラ『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、ミラノ・スカラ座『ジュリオ・チェーザレ』ニレーノ、ジュネーヴ大劇場『優雅なインドの人々』ペローヌ／オスマン／アダリオ、ハンブルク州立歌劇場『アグリッピーナ』パツランテ、ウェールズ・ナショナル・オペラ『アリオダンテ』スコットランド王などに出演している。新国立劇場初登場。



【ドンナ・アンナ】エレオノーラ・ブラット(ソプラノ)

Eleonora BURATTO

イタリア・マントヴァ生まれ。2009年、ザルツブルク音楽祭にムーティ指揮『デモフォンテ』クレウザでデビューし、11年、マドリッド・テアトロ・レアル、ザルツブルク音楽祭などで同じくムーティ指揮『二人のフィガロ』スザンナに出演。12年にはローマ歌劇場『シモン・ボッカネグラ』アメリア、13年にテアトロ・レアル、ローマ歌劇場『ドン・パスクワレ』ノリーナと主要劇場へ次々に出演。これまでにローマ歌劇場、ナポリ・サンカルロ歌劇場、テアトロ・レアル、チューリヒ歌劇場、ウィーン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、ザルツブルク音楽祭、ラヴェンナ音楽祭などで、『トゥーランドット』リユー、『フィガロの結婚』伯爵夫人、『ファルスタッフ』ナンネッタ／アリーチェ、『愛の妙薬』アディーナ、『コジ・ファン・トゥッテ』デスピーナ／フィオルディリージ、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、『カルメン』ミカエラなどに出演している。最近では、ミラノ・スカラ座、トリノ王立歌劇場『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、バイエルン州立歌劇場『オテロ』デズデーモナ、ウィーン国立歌劇場『ファルスタッフ』アリーチェ、メトロポリタン歌劇場、

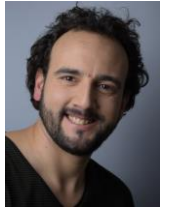


テアトロ・レアル『ラ・ボエーム』ミミ、メトロポリタン歌劇場『蝶々夫人』タイトルロール、ペーザロ・ロッシーニフェスティバル『オテロ』デズデーモナなどに出演。本年6月にはイタリアの権威ある音楽賞アッピアーティ賞2021を受賞。新国立劇場初登場。

【ドン・オッターヴィオ】レオナルド・コルテッラッツィ(テノール)

Leonardo CORTELLAZZI

マントヴァ出身。経済学部を卒業する傍ら声楽を学び、2007年からミラノ・スカラ座アカデミーに参加。その後スカラ座で『劇場の都合、不都合』グリエルモ、『なりゆき泥棒』アルベルト、『ドン・パスクワレ』エルネスト、モンテヴェルディ三部作のテレマコ／ネローネ、『時と悟りの勝利』時に出演。さらに、18年にはクルターグ作曲『勝負の終わり』(世界初演)ネググに出演、同作品のオランダ国立オペラ、ブダペスト春の音楽祭、パリ・オペラ座の再演にも出演している。モンテヴェルディからモーツァルト、ベルカント、ヴェルディ、20世紀、現代作品まで多彩な役をレパートリーに、ヴェネツィア・フェニーチェ歌劇場、フィレンツェ歌劇場、ヴェローナ野外音楽祭、ナポリ・サンカルロ歌劇場、ボローニャ歌劇場などに、『ドン・ジョヴァンニ』『ドン・オッターヴィオ』『魔笛』タミーノ、『愛の妙薬』ネモリーノ、『デイドとエneas』エneas、『椿姫』アルフレード、『ファルスタッフ』フェントンなどの役で出演。最近ではフェニーチェ歌劇場『愛の妙薬』ネモリーノ、『リナルド』ゴツフレード、パリ・オペラ座『勝負の終わり』などに出演している。新国立劇場初登場。



【ドンナ・エルヴィーラ】セレーナ・マルフィ(メゾソプラノ)

Serena MALFI

イタリアのメゾソプラノ。サンタ・チェチーリア音楽院で学び、2009年にスイス・ヴィンタートゥール音楽祭でサリエリ作曲『トロフォオーニオの洞窟』でデビュー。以来チューリヒ歌劇場、フィレンツェ歌劇場、ローマ歌劇場、マドリード・テアトロ・レアル、パリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、英国ロイヤルオペラ、バイエルン州立歌劇場、メトロポリタン歌劇場などへ次々に出演。『チェネントラ』アンジェリーナはキャリア初期から歌っており、バレンシア・ソフィア王妃芸術宮殿、パリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、ナポリ・サンカルロ歌劇場、ローザヌ歌劇場、ローマ歌劇場などで出演している。テアトロ・レアルに『皇帝ティートの慈悲』アンニオでデビューし、同役でウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場に出演。『フィガロの結婚』ケルビーノはウィーン国立歌劇場でロールデビュー後、テアトロ・コロネ、マスカット・ロイヤルオペラ、メトロポリタン歌劇場で出演。重要なレパートリーに10/11シーズンにチューリヒ歌劇場デビューを飾った『セビリアの理髪師』ロジーナがあり、同役は英国ロイヤルオペラ、テアトロ・レアル、カナディアン・オペラ・カンパニーでも歌っている。ミラノ・スカラ座には『コジ・ファン・トゥッテ』でデビュー。ザクセン州立歌劇場『アルチャーナ』ルッジェーロ、メトロポリタン歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』などに出演。最近ではロサンゼルス・オペラ『チェネントラ』、ハンブルク州立歌劇場『コジ・ファン・トゥッテ』『フィガロの結婚』、マチェラータ音楽祭『セビリアの理髪師』に出演。新国立劇場初登場。



【マゼット】近藤 圭(バリトン)

KONDO Kei

国立音楽大学卒業。同大学院を首席で修了。新国立劇場オペラ研修所第9期修了。ロームミュージックファンデーション奨励学生として、ドイツ・ハンブルクに留学。沼尻竜典指揮トウキョウ・モーツァルトプレイヤーズ定期公演で『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、『フィガロの結婚』伯爵役で2年連続出演。小澤征爾指揮『子供と魔法』時計、東京二期会『ナクス島のアリアドネ』ハレルキン、日生劇場『リア』フランス国王、『ラ・ボエーム』ショナール、グランドオペラ共同制作『カルメン』モラレスなどに出演。2019年は東京芸術劇場『ドン・ジョヴァンニ』マゼット、小澤征爾音楽塾『カルメン』ダンカイロに出演している。新国立劇場には16年『魔笛』パパゲーノに急遽出演して本格的にデビューし、20年『夏の夜の夢』ディミートリアス、高校生のためのオペラ鑑賞教室2020(ロームシアター京都公演)『魔笛』パパゲーノに出演している。22年4月『魔笛』パパゲーノにも出演した。二期会会員。



【ツェルリーナ】石橋栄実(ソプラノ)

ISHIBASHI Emi

大阪音楽大学専攻科修了。咲くやこの花賞、大阪舞台芸術奨励賞、音楽クリティッククラブ奨励賞、酒井時忠音楽賞を受賞。98年ドイツ・ケムニッツ市立劇場『ヘンゼルとグレーテル』グレーテルで招聘出演。以来『イドメネオ』イーリア、『フィガロの結婚』スザンナ、『魔笛』パミーナ、『愛の妙薬』アディーナ、『ランスへの旅』コルテーゼ夫人、『ファルスタッフ』ナンネッタ、『こうもり』アデーレ、『欲望という名の電車』ステラ、モノオペラ『声』ほか出演多数。新国立劇場では05年地域招聘公演『沈黙』及び12・15年『沈黙』オハル、13・14年高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演『夕鶴』つう、16年『ラ・ボエーム』ムゼッタ、18年『フィデリオ』マルツェリーネ、21年『カルメン』(高校生のためのオペラ鑑賞教室公演、びわ湖ホール公演)ミカエラに出演。オハル役で出演した大阪音楽大学ザ・カレッジ・オペラハウス『沈黙』公演は文化庁芸術祭大賞、大阪文化祭賞グランプリほかを受賞。大阪音楽大学教授。



新国立劇場 2022/2023 シーズンオペラ
ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

ドン・ジョヴァンニ

Wolfgang Amadeus MOZART / Don Giovanni
全2幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

【公演日程】2022年12月6日(火)18:30／8日(木)14:00／10日(土)14:00／11日(日)14:00／13日(火)14:00

【会場】新国立劇場 オペラパレス

【チケット料金】S:24,200円・A:19,800円・B:13,200円・C:7,700円・D:4,400円・Z:1,650円

【前売開始】2022年10月1日(土)

※予定上演時間：約3時間20分（休憩含む）

※新型コロナウイルス感染症の影響により、公演内容や招聘スタッフ・キャストに変更が生じる場合があります。

指揮	パオロ・オルミ	ドン・ジョヴァンニ	シモーネ・アルベルギーニ
Conductor	Paolo OLMI	Don Giovanni	Simone ALBERGHINI
演出	グリシャ・アサガロフ	騎士長	河野鉄平
Production	Grischa ASAGAROFF	Il Commendatore	KONO Teppei
美術・衣裳	ルイジ・ペーレゴ	レポレロ	レナート・ドルチーニ
Set and Costume Design	Luigi PEREGO	Leporello	Renato DOLCINI
再演演出	澤田康子	ドンナ・アンナ	エレオノーラ・ブラット
Revival Director	SAWADA Yasuko	Donna Anna	Eleonora BURATTO
舞台監督	斉藤美穂	ドン・オッターヴィオ	レオナルド・コルテッラッツィ
Stage Manager	SAITO Miho	Don Ottavio	Leonardo CORTELLAZZI
		ドンナ・エルヴィーラ	セレーナ・マルフィ
		Donna Elvira	Serena MALFI
		マゼット	近藤 圭
		Masetto	KONDO Kei
		ツェルリーナ	石橋栄実
		Zerlina	ISHIBASHI Emi

合唱指揮	三澤洋史
Chorus Master	MISAWA Hirofumi
合唱	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

芸術監督	大野和士
Artistic Director	ONO Kazushi

公演情報 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp/opera/dongiovanni/>

【チケットのご予約・お問い合わせ】新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00~18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <http://nntt.pia.jp/>

【チケット取り扱い】チケットぴあ、イープラス、ローソンチケットほか

* 2席 1,650円：公演当日朝10時より、新国立劇場 Web ボックスオフィスほかで販売。1人1枚。電話予約不可。

* 当日学生割引(50%)、ジュニア割引(20%)、高齢者割引、障害者割引、学生割引、当日学生割引(50%)など各種割引あり。*未就学児入場不可。

* 新国立劇場における新型コロナウイルス感染拡大予防への取り組みと主催公演ご来場の皆様へのお願い

https://www.nntt.jac.go.jp/release/detail/23_017576.html

本公演はレパートリー作品です。過去の上演の舞台写真を宣材としてご提供致します。



【1】



【2】



【3】



【4】



【5】



【6】



【7】



【8】



【9】



【10】



【11】



【12】

新国立劇場オペラ『ドン・ジョヴァンニ』2019年公演より 撮影:寺司正彦